第 21 回

桜門杯争奪

全日本学生弁論大会

平成 29 年 10 月 14 日（土）

9：00 開場／10：00 開会

会場：日本大学法学部本館 3 階大講堂

■ 主 催 ■

日本大学法学部

日本大學雄辯會

法秋雄弁会

～ 日本大学から、日本の未来を創る。 ～

■ 後 援 ■

日本大学櫻門雄弁クラブ

目次

大会趣旨 2
第21回桜門杯争奪全日本学生弁論大会実行委員長
荒井亮

桜門杯復活に思う 4
日本大学櫻門雄弁クラブ会長
日本大学危機管理学部長
福田弥夫

アドバイザー挨拶 5
日本大学法学部法秋雄弁会アドバイザー
日本大学法学部准教授
野村和彦

幹事長挨拶 7
日本大学法学部法秋雄弁会幹事長
荒井亮

プログラム 8
審査員紹介 9
大会規定 9
審査基準 11
ご案内・注意事項 12
出場弁士紹介 13
歴代優勝者 19
会場案内図 22

大会趣旨

弁論のもつ優位性とは何か。それは，送り手(弁士)と受け手(聴衆)とが時間と空間を共有する，密接な関係にあるという点であろう。弁士は聴衆の反応をその場で感じる。聴衆は弁士の主張のみならず，それを伝えんとする熱気と迫力を感じる。全力で表現する弁士と，全力で受けとめ，反応しようとする聴衆とが対峙するとき，初めて両者は言葉を介して一体となり，大きな感動を生む。それゆえ，歴史をも動かす力となりうるのである。

弁論が弁論たるためには，何よりもまずその主張が，心の底から溢れた真摯なものであり，論理的な裏付けがなされていなければならない。その上でさらに，それを聴衆に伝える熱意と表現力がなければならない。論と表現、この両者が結び付いたものこそ「真の弁論」であろう。我々がこの大会において目指すものは，まさに「真の弁論」を送ろうとする弁士と，受けとめようとする聴衆とが出会う場をつくることである。　　［第 12 回桜門杯争奪全日本学生弁論大会　大会趣旨より抜粋］

これは過去の桜門杯の大会趣旨であるが，現在の本大会においてもこの理念は大きく揺らぐことはない。我々はこの理念を継承しつつ，新たな本大会の目的として以下のように定める。

『本大会は，全国の学生が訴えたいと願うものを ***心から溢れる叫び*** *として，* ***言葉をもってわかりやすく魅力的に相手に伝達する*** *と共に，批判や感銘がもたらす議論をとおして，互いの理解や知見を深め，さらなる行動へとつなげられる開かれた機会と空間の共有をもって，日本の未来・世界の未来を切り開く人材の養成に寄与することを目的とする。』*　　以上

本大会の目的に向けて，弁士の皆さんには既存の弁論で取り扱われる分野や文章構成・表現手法にとらわれず，「ユーモア」，「熱意」，「自身の心奥より訴えたい思い」といったものが，より表現され洗練された弁論を聴衆にわかりやすく披露していただきたい。

その際，弁論に取り組む着眼点として，ぜひ経済産業省の公表する「社会人基礎力」を弁論の準備作業における調査，原稿作成，討論等で心がけていただき，弁士自身にとっても周りの仲間にとっても弁論作成がより有意義な成果となるように取り組んでいただきたい。さらに聴衆の皆さんには弁士の弁論に真摯に向き合い，弁士の思いを感じ取って，考え，反応してもらいたい。特に質疑応答や野次についてはより簡潔に，鋭く，論を拡げるような有意義なやり取りを期待したい。

本大会が弁士・聴衆にとって有意義な機会と空間となり，今後の各々の発展に寄与することを期待し，第 21 回桜門杯争奪全日本学生弁論大会を開催する。

第 21 回桜門杯争奪全日本学生弁論大会実行委員長

荒井亮

桜門杯復活に思う

桜門雄弁杯が一時の中断を経て復活することとなった。大学生の弁論をめぐる環境は大きく変わり、各大学の弁論部も往時の勢いはなく、多くの弁論大会もまたいつの間にか消滅していった。そのような中、日本大学法秋雄弁会の諸君が桜門杯を復活するために総力を結集し、歴史と伝統ある桜門杯復活にこぎつけた。その奮闘と努力を讃えるとともに、日本大学雄弁会の OB 会である桜門雄弁クラブを代表してお礼の言葉を述べたいと思う。

今から約 40 年前に再建復活した日本大学雄弁会であったが、中断の時期の遅れを取り戻すために雄弁会全員が一丸となって勉強会を開催し、討論の技術を磨き、各大会へと参加した。弁論の曲がり角といわれた時期、単に原稿を読み上げるだけではなく、質問に答え、あるいはその場でテーマを与えられ即興で自分の考えを述べるなど、弁論大会の在り方にも工夫は凝らされてはいたが、やはり中心は練りに練った原稿を読み上げる弁論であった。もっとも、絶叫型の弁論はすでに影を潜め、自分の主義主張を理解してもらうように、表現力を駆使して説得力のある弁論に努めてきた。

あれから 40 年が経過し、伝統的な弁論大会というよりは、パワーポイントなども使用するプレゼンテーションの大会に姿を変えた現在の弁論大会に、違和感を持つ者も多いと思う。しかし、IT 技術の発展は情報や意思伝達の方法を大きく変え、国会での議論の様子も大きく変わった。そのような新しい流れの中で、姿を変えた桜門杯ではあるが、変わらないものは若者の熱血熱涙の言葉が語られなければならないということである。全国から集まった弁士たちによる熱血溢れる弁論の展開に期待したい。

日本大学櫻門雄弁クラブ会長
日本大学危機管理学部長
福田弥夫

アドバイザー挨拶

桜門杯弁論大会へ御来場賜り、心より深く感謝申し上げます。弁士の皆さん、弁論に期待しております。

本大会は 15 年ぶりの開催であります。15 年前の 2002 年といえば、1 年生の会員がまだ可愛い盛りの３～４歳の頃です。私は 30 歳で、大学院生でありました。この間、三大弁論大会の一つといわれた桜門杯弁論大会は中断し、オール日大サークルとしての日本大学雄弁会は休部に追い込まれ、かろうじて法秋雄弁会がその歴史を受け継ぎ、活動を続けてまいりました。そしていま、少数精鋭の会員たちが伝統の大会を復活させるために、立ち上がりました。会員たちは、各大学の弁論部と連携を保ち、各大学主催の弁論大会にも弁士として参加し、弁論大会へ赴き弁士を応援してきました。会員諸君の熱意に敬意を表します。創部 125 周年を迎える日本大学雄弁会の歴史をふまえつつ、現代の学生弁論を経験してえた知見も生かし、それが本復活大会へと結実いたしました。

さて、文化庁によれば、最近の若者は、人と意見が異なる場合に、事を荒立てずに収めたいと考える人が６０％を超え、納得いくまで議論したいと考える人が２５％に止まる、とのことです。こういう時代であるからこそ、弁論大会は貴重であります。価値観が多様化している時代、異なる価値をもつ者同士が対話し、一致点を見出していく。これが互いの存在を認め合う社会の形成にもつながります。桜門杯が、新しい時代における学生弁論の存在意義を探究する場として、これからも継続的に行われることを切に希望しています。

最後に、本大会の実現のために御力添えを賜った方々に御礼を申し上げなければなりません。日本大学雄弁会の OBOG 会である桜門雄弁クラブの継続的・多面的御支援に対し、幾千万の感謝を表しても表しきれません。また、本大会の弁士をお送りくださり、あるいはその検討を行ってくださった各大学弁論部

の関係者の皆様方、会場の手配に御協力いただいた日本大学法学部事務局の皆様方に、深く御礼申し上げます。

日本大学法学部法秋雄弁会アドバイザー
日本大学法学部准教授
野村和彦

幹事長挨拶

本日は第２１回桜門杯争奪全日本学生弁論大会にお越しいただき、誠にありがとうございます。本大会を１６年ぶりに開催出来ましたことをご協力いただいた全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

本大会はかつて学生弁論界において三大杯の一つに称されましたが２００１年の開催を最後に桜門杯は長らく開催されてきませんでした。しかし日本大学雄弁会の流れを汲んだ私たち法秋雄弁会は２０１４年に弁論活動を再開させ、今日２０１７年１０月１４日に桜門杯を復活させます。今日に至るまで私たちは２年間にわたり「弁論の優位性とは何か」、「感銘をもたらす真の弁論とは何か」を強く意識し、学生弁論界の現状と照らし合わせて議論し続けて来ました。その成果は大会趣意、大会要項、そして本大会そのものに表れると信じております。

また、本大会には「大人たちには語れない」というテーマを設けております。このテーマには未来を築いていく我々自身が今の大人が様々な事情で声を出せない現実の問題に対して、学生しか持たない若き純粋な目で弁論を行い、聴衆に感銘をもたらして欲しいという我々法秋雄弁会会員の願いが籠められております。弁士の皆さんには自身の弁論で聴衆に感銘をもたらし、未来に繋がる熱弁を期待しております。

最後になりますが本大会は出場弁士だけでなく聴衆の皆様も大会を成功に導く一人となります。聴衆の皆様には新しい試みへのご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。本大会が弁士・聴衆によって有意義な場になることを心より祈っております。

日本大学法学部法秋雄弁会幹事長

荒井亮

プログラム

開 会 式	開会の辞 アドバイザー挨拶 祝　　辞 審査員紹介 大会説明	10：00 ～10：30
午前の部	第１弁士　梶原航平　日本大学 演題「おまつり」	10：40 ～11：10
	第２弁士　高森美里　中央大学 演題「喪家之狗」	11：25 ～11：55
	≪昼休憩≫	11：55 ～13：00
午後の部	第３弁士　山下萌莉　東京大学　***野次なし*** 演題「ちょっと休む」	13：00 ～13：30
	第４弁士　速山武士　拓殖大学 演題「我が友と名も無き兄弟にささげる」	13：45 ～14：15
	第５弁士　児玉達朗　慶應義塾大学 演題「はじめの一歩」	14：30 ～15：00
	第６弁士　近藤俊平　東京大学 演題「トドメの一撃　※この弁論はフィクションです」	15：15 ～15：45
	【審　査】＜休憩＞	15：45 ～16：45
閉 会 式	結果発表・表彰 講　　評 閉会の辞	16：45 ～17：30

大会終了後，記念撮影・レセプション（18：30～）をおこないます。

野次なし…この弁士の弁論での野次はお控えくださいますようにお願い致します。

審査員紹介

審査員長	**山中和則**先生	株式会社東急総合研究所総務部長
審査員	**小野健太郎**先生	日本大学国際関係学部教授
	齊藤想聖先生	株式会社リバネス人材開発事業部
	関根秀行先生	産経新聞社編集局編集委員室長
	徳永誠先生	マレーシア政府観光局 マーケティング　マネージャー

（審査員 50 音順）

大会規定

テーマ	「大人たちには語れない。―若き想いを未来につなぐ―」 現代，国内外では様々な物事がひしめきあい，多くは大人たちの言葉で語られています。しかし未来を築いていくのは私たちです。今こそ未来を担う皆さんの熱い想いをぜひ聞かせてください。そしてその魅力的な弁論でもって聴衆を巻き込み，未来を築いていってください。
分　野	法／政治経済／商／国際／理工／医／人文科学を中心とした分野から選択自由とする。
演　題	各自で定めることとする。
形　式	弁論（演説，スピーチの類）を基本とする。 ただし，補助としてその他の表現手段を用いることを壇上であれば原則認める。（例：パワーポイントなどによる演出） 壇上の演出等は弁士側の要望に応じて，主催者側と協議し対応する。 ※表現内容によっては主催者側の運営の都合上，認められない場合がある。

補 助 員	補助員は弁論の妨げにならない範囲で演出等の補助をおこなうものとする。（例：スライドの切り替えなど） 弁士１人につき原則１人の補助員の参加を認めるが，作業範囲は主催者側に申請し，認められたものに限定する。
発表時間	１２分程度。（１３分打ち切り） 時鈴１１分で１打，１２分で２打，１３分で乱打打ち切り
質疑応答	10 分程度（弁論時間によって変動しません）。関連質問なし。
表　　彰	優勝　　１名［桜門杯、トロフィー，賞状，副賞　］ 準優勝　　１名［トロフィー，賞状，副賞　］ 審査員特別賞　１名［表彰楯，賞状，副賞　］ ※該当者がない場合もある。
野　　次	聴衆の弁士に対する野次について，弁士が認める場合のみ野次を認め，弁士や他の聴衆に対する影響を考慮し，野次がおこなえる場所を指定する。ただし，弁士側の質疑応答中の野次は認めない。また，弁論に支障のない範囲で掛け声には原則制限しない。※運営側からの注意喚起には従うこと。

審査基準

審 査 方 法	審査は大会趣旨，大会目的，大会テーマを前提としたうえで，審査員が下記の各審査観点項目に則り，論旨 40 点，表現 40 点，質疑応答 20 点，合計 100 点満点で採点し，審査員の平均点をもとにおこなう。

〇論　　旨　**審査観点（配点：各 10 点）×4 項目＝40 点**

審査観点

（１）　論旨に対する熱意・情熱が感じられ，将来性や独創性・ユーモアが表れて聴衆を引きつける魅力がある。

（２）　論旨に適した巧みな言語表現・構成がされており，聴衆に分かり易く説得力がある。

（３）　問題提起が的確であり重要性を感じられ，論理に一貫性がある。

（４）　様々な立場や視点の材料がバランス良く適切に活かされている。

〇表　　現　**審査観点（配点：各 10 点）×4 項目＝40 点**

審査観点

（１）　熱意・情熱やユーモアがあり，感銘・興味・関心を深く共有できている。

（２）　抑揚，発音，声量，強弱，早さ，間の置き方が適切である。

（３）　論旨に見合った表現手段が適切に用いられている。

（４）　聴衆に対して誠実な態度で，訴える力がある。

〇質疑応答　**審査観点（配点：各 10 点）×2 項目＝20 点**

審査観点

（１）　真摯な態度で適切かつ簡潔に応対できている。

（２）　より聴衆の理解や共感を拡げられている。

審査員特別賞	審査員特別賞は審査員が「特別に表彰したい弁士」を合議により決し，授与するものとする。審査の際，聴衆の反応も参考とする。

ご案内・注意事項

●ご飲食に関して

・会場内での蓋つきの飲み物以外のご飲食はお控えください。

●喫煙に関して

・**屋外を含め，**指定場所以外での喫煙は**禁止**となっております。

喫煙の方は，お手数ですが **10 号館 2 階喫煙ルーム**をご利用ください。

●撮影に関して

・許可のない大会の撮影・録音はおやめください。

●携帯電話・スマートフォン等のご利用に関して

・会場内での携帯電話・スマートフォンによる通話・弁論中のはお控えください。

・携帯電話・スマートフォンのご利用はお控えください。

●そのほか

・大会運営の妨げとなる行為はおやめください。

・レセプション（事前予約制）はマイアミガーデン水道橋西口店にて 18：30 より予定しております。チケットは受付におきまして 3,000 円で販売しております。

・本館 3 階・1 階・地下 1 階食堂、10 号館 2 階以外のご利用はお控えください。

≪質疑応答について≫大会規定をご参照ください

・質問者は司会より指名いたします。

・質問をおこなう際は所属，名前のあとに**簡潔に**お願い致します。

・多くの方にご質問いただくため，関連質問はなしでお願い致します。

・**弁士側の質疑応答中の野次は認めません**。

≪野次について≫大会規定をご参照ください

・野次は一般聴衆にご配慮いただき，なるべく前方の席よりお願い致します。

出場弁士紹介

第１弁士	梶原航平　　日本大学
演　　題	おまつり
論　　旨	昨今、地域振興や地域格差解消などといったように「地域」という言葉にフォーカスされているが、その実情は多種多様であります。それらを社会科学と人文科学の側面から分析を試みる。さらに、いくつかの地域にて実地調査を行い、そこからわかる地域にある課題や潜在的な能力を紐解き、どのような地域対象の協働策ないしは振興策があるのか検証及び施策提案を行う。さらに、地域を起点にした新たな日本社会の展望についても述べていきたい。
メ モ 欄	

第２弁士	高森美里　　中央大学
演　　題	喪家之狗
論　　旨 メ モ 欄	「終身雇用」「年功序列型賃金」「企業別労働組合」 この３種の神器によって、日本の労働者の生活は安定していました。 一つの企業に勤め続けることができ、年齢とともに必要とされる賃金がもらえる生活が。 こうして日本の労働者は日々の生活を安心して送ってきたのです。 しかしこの生活の代償として、恒常的な残業が存在します。 これが行き過ぎた結果、過労死という問題が噴出したことは記憶に新しいことでしょう。 この問題の根本原因である長時間労働に関しては、政労使が残業規制に合意し解決の方向に向かっています。 この残業規制によって、日本の労働環境はもう何も問題はなくなったかのようにみえました。 しかし本当に労働者の健康は、もう何物にも脅かされないのでしょうか？ 健康とは身体の面だけで測れるものではありません。 現在、身体と対をなす精神の健康は守られているといえるのでしょうか？

第３弁士	山下萌莉　　東京大学
演　　題	ちょっと休む
論　　旨	「私、学校に行きたくない」。ーーそんなことをいつか、自分の子供に言われたら、貴方はどうしますか。現在、小中高を問わず、不登校になる生徒の割合は年々増加の一途を辿っています。中でも小中学校における不登校は、なかなかその後の勉強についていけず人生に大きく影響を及ぼします。しかしいま現在取れる対策は、「無理やり行かせる」もしくは「転校する」と言ったものが多く、ただでさえ苦しんでいる子供の心にさらに大きな傷痕を残してしまうことが少なくありません。本弁論では、私自身の人生をもとに、これから先の子供達に何ができるかを検討、提案します。
メ モ 欄	

第4弁士	速山武士　　拓殖大学
演　　題	我が友と名も無き兄弟にささげる
論　　旨	皆様は年間の中絶件数がどの程度がご存知でしょうか？約 18 万件です。なにを命としてみなすか難しいところではありますが、毎年 18 万もの命が消えているという見方もできます。 さて、中絶をするということは望まぬ妊娠があったという事です。「なんでちゃんと避妊しなかったんだ！」というご意見もあるでしょう。しかしこれはむずかしい。ただ避妊を気をつけるだけではどうしようも対処が出来ない事もあります。 ゆえに私は避妊に着目点をおきつつ、望まぬ妊娠をできるだけ回避できる選択肢を整え、毎年 18 万も亡くなっている赤ちゃん、または望まぬ妊娠で辛い思いをする者達をできるだけ減らせるようにする、そしてそれを諸君らに手法も踏まえ訴える、若き叫びでございます。
メ モ 欄	

第５弁士	児玉達朗　　慶應義塾大学
演　　題	はじめの一歩
論　　旨 メ モ 欄	階級の固定化は個人の選択の自由を奪うだけではなく、10 兆円規模にも及ぶ損失を生み出す。個人の幸福の為にも、社会の利益の為にも解決しなければならない。 階級の固定化は、所得格差によって起きる教育サービスの質の格差 - 教育格差 - が、就業状況に格差を作り、再び所得格差を生産する事で起きる。 教育格差は個人の努力によって覆せるような物ではない。これらの差を可能な限り減らし、階級の固定化を個人の努力で乗り越えられる環境を作り出さなければならない。 本弁論では教育格差改善の為に、特に幼児教育に注目した。幼児教育は人生におけるはじめの一歩である。全ての子供が理想的な「はじめの一歩」を踏み出し、その後の人生の障壁を乗り越えられるように願い、本弁論を作った。

<table>
<tr><td>第６弁士</td><td>近藤俊平　　東京大学</td></tr>
<tr><td>演　　題</td><td>トドメの一撃　※この弁論はフィクションです</td></tr>
<tr><td>論　　旨

メ モ 欄</td><td>「ここで私は、以下の政策を提言する！」
「弁論こそ説得をする場である！」
「野次によって実現される双方向コミュニケーション！」
「“議論”の場としての弁論大会！」
こんな風に先輩たちから教わりましたか？このような認識のもとに弁論活動をしていますか？
妄信してはいませんか？別の視座から俯瞰してみましたか？
今一度、弁論で「何を」「どう」語るのか、一緒に“議論”してみましょう。
そして、その先に見える弁論の新たな可能性を、ここ水道橋で、覗いてみましょう。
気負う必要はありません。所属とか、学年とか、一旦全部忘れて、楽しみましょう。
最高に楽しんで、それで盛り上がれたら、もう、サイコーの大会になるじゃないですか。</td></tr>
</table>

歴代優勝者

第１回　優勝　法政大学
織田和家

第２回　優勝　明治大学
小暮太郎

第３回　優勝　近畿大学
速見善洋

第４回　優勝　中央大学
外岡康

第５回　優勝　早稲田大学
新谷博範

第６回　優勝　日本大学
小野沢丈

第７回　優勝　東京大学
中條一夫

第８回　優勝　慶應義塾大学
頭師暢秀

第９回　優勝　中央大学
小宮山隆志

第１０回　優勝　法政大学
浪川俊一

第１１回　優勝　防衛大学校
北島一

第１２回　優勝　日本大学
吉住健一

第１３回　優勝　日本大学
菊間彰

第１４回　優勝　中央大学
植村茂幸

第１５回　優勝　日本大学
藤尾幸司

第１６回　優勝　拓殖大学
立石葉子

第１７回　優勝　慶應義塾大学
山澤義徳

第１８回　優勝　明治大学
松葉祥一郎

第１９回　優勝　拓殖大学
鈴木雄作

第２０回　優勝　拓殖大学
水村篤弘

≪御　礼≫

この度は本大会の広報記事におきまして、小宮山隆志中野区議会議員、吉住健一新宿区長のお二方にはインタビュー取材にご協力いただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。（広報記事はぜひWEBからご覧ください）

最も歴史の古い、経験の深い当社に
楯・トロフィー・カップ・メダル・バッチの店
株式会社 東京メダル製作所
郵便番号 101-0051 東京都千代田区神田神保町２の１４
電話 代表 (3262) 0806 郵便振替口座 00140−7−166
FAX (3262) 8673

会員募集

詳しくはWEB、Facebook、Twitter、パンフレットにて！

Facebook ／ 日本大学法秋雄弁会　Twitter／ 【公式】日本大学法秋雄弁会

WEB ／ http://nuclyu-benkai.weebly.com

大会企画委員会

［大会に関する協議・企画策定］

平成 28 年 9 月～12 月

幹事長	生内雄之介(2 年)
副幹事長	田中翔太郎(2 年)
学年代表者	谷本英俊（4 年）
学年代表者	佐伯航一郎(3 年)
委員	荒井亮（1 年）
	新井然裕（1 年）
	氏家海斗（1 年）
	平井喬大（1 年）
	渡邊広樹（1 年）
	ほか，会員一同

学年は平成 28 年度当時のもの

大会実行委員会

［大会企画の実行・主催運営］

平成 29 年 4 月～

幹事長	荒井亮（2 年）
実行委員長	荒井亮（2 年）
副実行委員長	梶原航平（2 年）
学年代表者	佐伯航一郎(4 年)
学年代表者	生内雄之介(3 年)
会計	田中瑛子（3 年）
会計監査	清水友章（4 年）
委員	渋谷颯作（1 年）
	山崎利駆（1 年）
	山田晴菜（1 年）
	ほか，会員一同

第 21 回桜門杯争奪全日本学生弁論大会パンフレット

発行　平成 29 年 10 月 14 日

編集責任者　佐伯航一郎（法学部政治経済学科 4 年）

発行元　日本大学法学部法秋雄弁会

第 21 回桜門杯争奪全日本学生弁論大会実行委員会

〒101-837　東京都千代田区三崎町２－３－１日本大学法学部内

E-mail： nulaw.yuubenkai@gmail.com

会場案内図

日本大学法学部本館３階大講堂

運営側の便宜上、座席を下記アルファベットＡ～Ｈブロックで表記いたします。

野次は一般聴衆にご配慮いただき、なるべく前方の席よりお願い致します。

1011 講堂設備故障に伴う会場の変更に伴い,

変更先本館３階大講堂の会場図は

別紙にて配布予定です。

ご了承ください。

１５年ぶりに甦るスピーチの祭典
OverRock Argument to Reborn
ORATORE
語られる叫び。
これを聴けるのは、
ここ水道橋だけ。
第21回桜門杯争奪全日本学生弁論大会
大人たちには語れない。 - 若き想いを未来につなぐ -